



## 第39回研究助成金・海外留学助成金受賞者決定！

かなえ医薬振興財団は、生命科学分野の斬新な研究の推進を図り、若手研究者を育成するために1970年に設立され、これまでに全国1,275名の研究者に研究助成金および海外留学助成金を提供してまいりました。第39回となる2010年度は、10月6日の選考委員会及び10月18日の理事会を経て、受賞者56名が決定されました。今年も、医学及び薬学領域の若手研究者（研究助成金40歳以下、海外留学助成金35歳以下）を支援するため総額6,220万円の助成金を交付します。審査の結果、研究助成金は計40名、海外留学助成金は計16名の先生方に授与されます。（受賞者一覧は3-4頁参照）



10月6日に開催された選考委員会の様子

### ○分野別の応募状況

#### ◇研究助成

分野	応募件数
臨床医学1	51
臨床医学2	41
臨床医学3	64
臨床医学4	101
基礎医学1	130
基礎医学2	165
合計	552

#### ◇海外留学助成

分野	応募件数
臨床医学1	17
臨床医学2	10
臨床医学3	19
臨床医学4	51
基礎医学1	31
基礎医学2	28
合計	156

臨床医学1：神経／脳  
臨床医学2：循環器  
臨床医学3：消化器／代謝  
臨床医学4：呼吸器／その他  
基礎医学1：癌／免疫／ゲノム／感染  
基礎医学2：神経／薬理／薬物動態／その他

### ●選考委員長よりひとこと



選考委員長 春日 雅人（国立国際医療研究センター 研究所長）

今年度は、昨年と同様に応募領域を臨床医学の4分野、基礎領域の2分野の合計6分野で公募しました。臨床医学分野は1)神経/脳、2)循環器、3)消化器/代謝、4)呼吸器/その他とし、また、基礎医学分野は1)癌/免疫/ゲノム/感染、2)神経/薬理/薬物動態/その他です。

今回の応募数も昨年同様に多く、全国の大学、研究所、病院等100以上の施設から研究助成金が552報、海外留学助成金が156報の応募があり、厳正な審査の結果、研究助成金受賞者40名、海外留学助成金受賞者16名が決定いたしました。研究助成金が13.8倍、海外留学助成金が9.8倍の厳しい競争の中で受賞された先生方に、心よりお喜びを申し上げます。この受賞が、先生方の今後の研究活動により一層の励みとなり、生命科学の進歩発展に貢献されることを期待しています。

## ● 研究助成金受賞者 喜びの声



植村 健吾（京都大学医学部附属病院 神経内科）

今回、第39回かなえ医薬振興財団より研究助成金を賜り、大変栄誉な事と喜んでおります。本当にありがとうございます。私自身は、平素より一神経内科医として神経難病の診療に取り組んでおり、日々難病の患者様方に医学研究者として何かして差し上げられる事がないだろうかと自問する日々であります。今回、研究計画を評価して頂きました事を励みとし、また助成金を研究成果へと繋げる事で、少しでも神経難病の領域に光が当てられるよう努力する所存であります。

古橋 真人（札幌医科大学 内科学 第二講座）

この度は貴財団の研究助成金の交付を賜り誠に光栄に存じます。私はこれまで、肥満・糖尿病・動脈硬化に関して脂質シャペロンである脂肪酸結合タンパクと小胞体ストレスに焦点を当て、新規の治療法への応用を目指して研究を行ってきました。今回の受賞を励みにより一層研究に精進し、ご期待に沿える研究成果を挙げられるよう頑張っていきたいと考えております。



太田 嗣人（金沢大学 フロンティアサイエンス機構）

第39回かなえ医薬振興財団助成金にご採択いただき、誠に光栄に存じます。「飽食」の現代社会では肥満に伴う糖尿病や脂質異常症の患者が世界的に増加しグローバルな問題となっています。私は、これらの生活習慣病に共通する病態基盤である「慢性炎症」がいかに疾患を発症・進展させるのか、その複雑なメカニズムを解明するために新たな仮説を立て研究を進めております。今回の受賞を支えに、少しでも臨床応用につながる研究成果をご報告できるよう一層努力して参りたいと思います。

下村 裕（新潟大学大学院医歯学総合研究科 遺伝性皮膚疾患研究室）

この度、貴財団の研究助成金の交付を賜り大変光栄に存じます。毛髪はとても活発な器官で、一生涯に渡って新生と退縮を繰り返す毛周期を営んでいますが、その調節機構についての分子レベルでの情報はまだ乏しいのが現状です。本研究では、日本人の先天性毛髪疾患の家系を解析することで、発症に関与する遺伝子を同定し、さらに、それらの毛における機能を明らかにしたいと考えています。今回の受賞を励みにして、今後も研究活動に精進したいと思います。



中田 慎一郎（慶應義塾大学医学部 総合医科学研究センター 咸臨丸プロジェクト）

このたびは、伝統あるかなえ医薬振興財団助成に採択いただき、光栄に存じます。発癌機構や癌細胞の特性を解明する基礎研究は、癌予防、癌治療法開発への基盤として、今後ますます重要になると考えております。DNA 損傷応答機構の異常は発癌原因であると同時に、癌細胞の弱点でもあり、非常に魅力的な研究分野です。今回助成の対象となりました、クロマチンユビキチン化と相同組み換え修復機構に関する研究の成果により、癌研究の発展に貢献できるよう努力する所存です。

新井 郷子（東京大学大学院医学系研究科 疾患生命工学センター 分子病態医科学部門）

この度、第39回かなえ医薬振興財団助成金に採択されましたこと、誠に光栄に存じます。私共の研究室は約5年前に発足し、以来 AIM を中心としたメタボリックシンドロームの研究を行っております。当時、文字通り「無」の状態からスタートした中、貴財団に助成金を賜り、大きな進展を得ることができました。今回2度目の受賞は、これまでを振り返り、周囲の人々の有り難さを噛みしめ、初心に戻る良いきっかけとなりました。今後もこの感謝の気持ちを忘れずに、日々努力して参りたいと思います。



## ●海外留学助成金受賞者 喜びの声



### 武田 朱公 (大阪大学大学院医学系研究科 臨床遺伝子治療学)

第39回かなえ医薬振興財団海外留学助成に採択されましたことを大変光栄に思います。これまで当教室の森下竜一教授のご指導の下、アルツハイマー病における脳血管病態の役割について研究を進めて参りました。留学先のハーバード大学医学部でも引き続き認知症の病態解明と新規診断・治療法の開発を目指した研究に取り組みます。この度賜りました助成を何倍にも大きくして還元し、広く深く社会貢献することが礼儀と思っております。

### 森谷 純治 (千葉大学大学院医学研究院 心血管病態解析学)

この度は第39回かなえ医薬振興財団海外留学助成金を賜りまして、大変光栄に存じます。近年血管新生をターゲットとした治療法が循環器を含めた各分野において臨床応用されてきていますが、未だにこうした治療に対して抵抗性のある症例が存在します。私はこれまで血管新生に関わる新規の分子、および新しい治療法の開発についての研究を行ってまいりました。今回の受賞を糧としてさらに留学先においても研究を進展させていきたいと考えております。



## ●第39回(平成22年度)助成金受賞者 一覧

### 研究助成金

氏名	所属	研究課題
<b>研究臨床1</b>		
庄島 正明	東京大学医学部附属病院 脳神経外科	脳動脈瘤コイル塞栓術後の瘤内血流再開通現象に対して血流動態が及ぼす影響に関する研究
植村 健吾	京都大学医学部附属病院 神経内科	シナプス接着がアルツハイマー病理に与える影響の分子基盤の解明
白尾 敏之	山口大学医学部脳神経外科	くも膜下出血後の脳血管攣縮のメカニズム -細胞膜ラフトのコレステロールによる制御機構-
佐竹 渉	神戸大学大学院医学研究科 神経内科 / 分子脳科学	パーキンソン病遺伝子同定と個別化医療の開発
<b>研究臨床2</b>		
古橋 真人	札幌医科大学内科学第二講座	動脈硬化の新規バイオマーカーとしての脂肪酸結合タンパクおよびリポカインの可能性
山口 修	大阪大学大学院医学系研究科 循環器内科学	オートファジーによる選択的ミトコンドリア分解が心不全発症に及ぼす影響の解明
山本 浩一	大阪大学大学院医学系研究科 老年・腎臓内科学	酸化LDLによるアンジオテンシンII受容体の間接的活性化とその病態生理学的意義の検討
<b>研究臨床3</b>		
太田 嗣人	金沢大学フロンティアサイエンス機構	ケモカイン受容体を介した糖脂質代謝調節機構の解明
石沢 武彰	東京大学医学部 肝胆脾・人工臓器移植外科	蛍光プローブを用いた肝癌に対するナビゲーション手術の開発と新規治療法への応用
八木 洋	慶應義塾大学外科学教室 (一般・消化器)	全肝脱細胞化三次元スキャフォールドと幹細胞を用いた重症肝障害の新しい治療戦略
金崎 啓造	金沢医科大学 糖尿病内分泌内科	生活習慣病における catechol-o-methyltransferase-2 methoxyestradiol 不全と葉酸およびホモシステイン代謝異常との相互作用検討
二宮 瑞樹	九州大学病院 光学医療診療部	ゲノム多型情報に基づく肝移植後C型肝炎(HCV)再発に関する分子機序の解明と治療戦略の構築
<b>研究臨床4</b>		
下村 裕	新潟大学大学院医歯学総合研究科 遺伝性皮膚疾患研究室	日本人における先天性乏毛症の遺伝子解析
蘇原 映誠	東京医科歯科大学医学部附属病院 血液浄化療法部	高インスリン血症患者における WNK キナーゼを介した塩分感受性高血圧メカニズムの解明
小賀 徹	京都大学大学院医学研究科 呼吸管理睡眠制御学	プロスタグランジン F2α の肺線維症における臨床的役割の検討
河村 和弘	秋田大学医学部 産婦人科	睡眠ヒト原始卵胞の活性化とその生殖医療への臨床応用
黒田 純也	京都府立医科大学医学部 内科学 血液・腫瘍内科部門	造血器悪性腫瘍における骨髓腫瘍環境による細胞周期静止の分子機構の解明と薬剤抵抗性の克服
來生 知	横浜市立大学大学院医学研究科 顎顔面口腔機能制御学	癌の転移に関わる骨髓細胞と premetastatic niche の解析
中山 健太郎	鳥根大学医学部 産科婦人科	卵巣原始卵胞腫瘍の新規増幅遺伝子 ZNF217 を標的とした治療法の開発
<b>研究基礎1</b>		
中田 慎一郎	慶應義塾大学医学部 威臨丸プロジェクト	クロマチンポリユビキチン化による DNA 相同組み換え修復調節機構の解明
木村 彰宏	慶應義塾大学医学部 微生物学・免疫学教室	ダイオキシン受容体による免疫応答制御機構の解明および自己免疫疾患治療への応用
山本 雅裕	大阪大学大学院医学系研究科 免疫制御学	宿主自然免疫システムと病原性原虫の相互作用の解析
竹内 純	東京大学分子細胞生物学研究所 エピゲノム疾患研究センター	ヒト心不全発症に関わるクロマチン結合制御因子群
柳井 秀元	東京大学大学院医学系研究科 免疫学講座	自然免疫系における新規 DNA センサーの同定と機能解析

北川 浩史	群馬大学生体調節研究所 核内情報制御分野	エピジェネティック制御による未知グルコシルコリド依存性炎症制御メカニズムの解析
松下一史	兵庫医科大学先端医学研究所 アレルギー-疾患研究部門	アレルギー-疾患発症におけるサイトカイン産生調節機構の研究
中野 正和	京都府立医科大学 ゲノム医科学部門	緑内障関連遺伝子砂漠領域の遺伝子発現調節機構の解明
一戸 猛志	九州大学大学院医学研究院 ウイルス学	新しいウイルス認識機構の解明
<b>研究基礎2</b>		
池谷 裕二	東京大学大学院薬学系研究科 薬品作用学教室	脳疾患を「神経-グリア-血管」の三因子相互作用モデルで捉える
齋藤 敦	宮崎大学医学部 解剖学講座 分子細胞生物学分野	小胞体ストレス応答と骨軟骨代謝のダイナミクス
新井 郷子	東京大学大学院医学系研究科 疾患生命工学センター分子病態医科学部門	脂肪分解タンパク質 AIM の制御によるメタボリックシンドローム制圧を目指して
川村 晃久	京都大学学際融合教育研究推進センター 生命科学系キャリアパス形成ユニット	体細胞初期化を利用した安全かつ俊敏で効率的な心筋細胞誘導技術の開発
坂本 浩隆	岡山大学大学院自然科学研究科 高次生物学講座神経制御学分野	雄の性機能を司る脳・脊髄神経ネットワークの解明
松田 恵子	慶應義塾大学医学部 生理学 I	「1 対多」型シナプス形成における軸索領域化原理の解明
林 崇	東京大学大学院医学系研究科 分子神経生物学	精神疾患原因遺伝子による神経スパイン構造の調節
金子 奈穂子	名古屋市立大学大学院医学研究科 再生医学分野	霊長類モデルを用いた脳梗塞後の再生過程の解析
平田 務	愛媛大学 上級研究員センター	恐怖刺激応答に関与する神経細胞の発生を制御する分子メカニズムの解明
鈴木 淳史	九州大学生体防衛医学研究所 器官発生再生学分野	多能性幹細胞に由来する肝組織幹細胞の分離と機能解析
田中 智洋	京都大学大学院医学研究科 腫瘍生物学講座	$\beta$ Klotho による腸肝循環と脂肪細胞機能の統一的制御機構の解明
松田 七美	早稲田大学理工学術院先進理工学部 生命医科学科	筋萎縮性側索硬化症モデルショウジョウバエを用いた神経変性・神経細胞死に関わる分子機構の解明

## 海外留学助成金

氏名	申請時所属/留学先	研究課題
<b>留学臨床1</b>		
武田 朱公	大阪大学大学院医学系研究科 臨床遺伝子治療学講座	脳血管病態を基点としたアルツハイマー病の新規診断・治療法の開発
三隅 洋平	国立病院機構 熊本再春荘病院 神経内科	アミロイドポリニューロパチーの抗体治療の開発
<b>留学臨床2</b>		
森谷 純治	千葉大学大学院医学研究院 心血管病態解析学	神経-血管ガイダンス分子による血管新生制御機構の解明とその治療応用
<b>留学臨床3</b>		
神田 光郎	名古屋大学大学院 消化器外科学	膀胱癌発症の背景となりうる遺伝子異常や外的因子の検出、各種臨床検体を用いた膀胱癌早期発見を可能とする手法の考案
金沢 一平	McGill University Calcium Research Laboratory	骨特異的 menin 過剰発現マウスと骨特異的 menin 欠損マウスを用いた menin の骨代謝における役割の解明
<b>留学臨床4</b>		
柳 輝希	北海道大学大学院医学研究科 皮膚科学分野	皮膚炎における Calcyclin-binding protein の機能解析
高橋 勇人	National Institute of Arthritis and Musculoskeletal and Skin Diseases, NIH	T細胞サブセット特異的 microRNA によるヘルパー T 細胞の分化制御機構の解明と新規治療標的の同定
國崎 祐哉	アルバートアインシュタイン医科大学	アドレナリン受容体を介した骨髄血管内皮接着分子の発現制御機構の解明とその発現調節による効果的な骨髄移植法の開発
田崎 正行	新潟大学医歯学総合研究科 腎泌尿器病態学分野	臨床応用に向けた異種移植の免疫抑制療法の確立 - 異種免疫応答の解析 -
小野 政徳	慶應義塾大学医学部 産婦人科	子宮筋幹細胞を用いた雌性生殖器官の臓器再生と子宮筋由来疾患の病因解明
<b>留学基礎1</b>		
村上 智彦	宮崎大学医学部 解剖学講座分子細胞生物学分野	肥満脂肪組織における慢性炎症と小胞体ストレス応答
飯島 則文	Yale University School of Medicine Department of Immunobiology	粘膜ウイルス感染に対する粘膜組織内リンパ節様組織の役割
鎌谷 洋一郎	Fondation Jean Dausset - Centre d'Étude du Polymorphisme Humain	冠動脈硬化症のゲノムワイド関連研究、他
<b>留学基礎2</b>		
大畑 慎也	独立行政法人理化学研究所 脳科学総合研究センター	成体マウス脳室下帯での神経細胞新生における一次繊毛と Shh シグナルの役割
廣田 毅	University of California San Diego, Div. Biol. Sci.	低分子化合物を用いた哺乳類概日時計機構の解析
進藤 麻子	University of Texas at Austin	創傷治癒における細胞極性確立と免疫系細胞の役割

## 発行

財団法人かなえ医薬振興財団 事務局

〒163-1488

東京都新宿区西新宿 3-20-2 サノフィ・アベンティス (株) 内

Tel : 03-6301-3090 FAX : 03-6301-3094

E-mail : kanae.zaidan@sanofi-aventis.com

URL : <http://www.kanae-zaidan.com/>

### ☆ご協力をお願いします

このニュースレターは、歴代受賞者及び応募関連領域の先生方宛を中心に約 2500 部発行しております。

送付先のご所属等に変更がございましたら、登録情報を更新いたします。お手数ですが e-mail 等でご連絡下さいますよう宜しくお願い申し上げます。